

# キャリア・パスポートって 何だろう？



# なぜポートフォリオは キャリアを考える上で効果的なのか？

特に小学校で、  
真剣に考えるように  
なるんだね

キャリア教育の場面においては、学習や活動の内容を記録し、振り返ることには、教師にとっても、児童生徒にとっても意義があります。

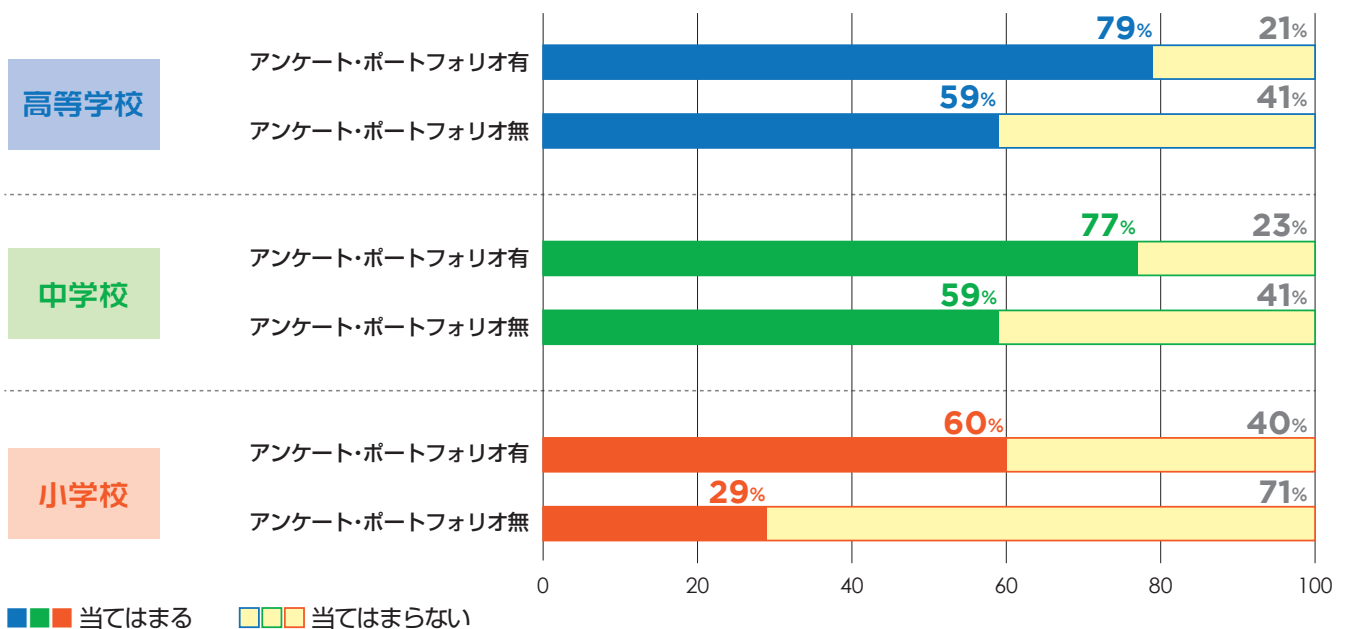
キャリア教育の成果に関する評価、例えば、「アンケートやポートフォリオ等」の実施を全体計画に盛り込んでいる学校の「児童・生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている」という結果が全国アンケート\*1からも得られています。

また、実際に「生徒理解のための個人資料」として「キャリア教育の記録(ポートフォリオ)や成果」を利用している学級・ホームルーム担任の先生方は、キャリア教育を通じて「生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている」と手応えを感じているようです。

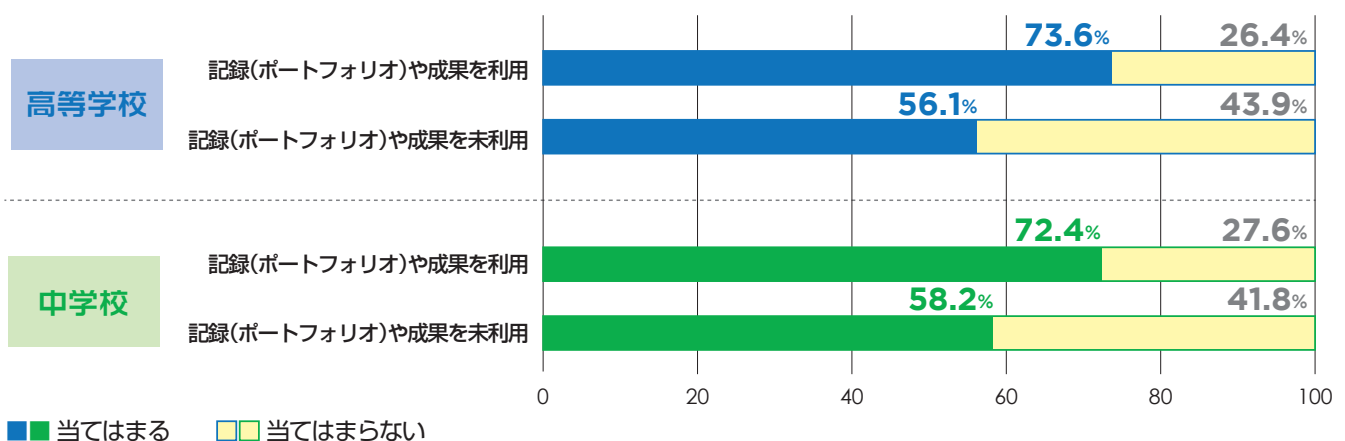


## 児童・生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている

### 学校調査 「全体計画内に盛り込んでいる事項」



### 担任調査 「生徒理解のための個人資料」





なぜ、こうした記録、ポートフォリオの活用は「児童生徒は自己の生き方や進路を真剣に考え」ることにつながるのでしょうか？



**A. ポートフォリオが、キャリアに含った(自己)評価の形だから**

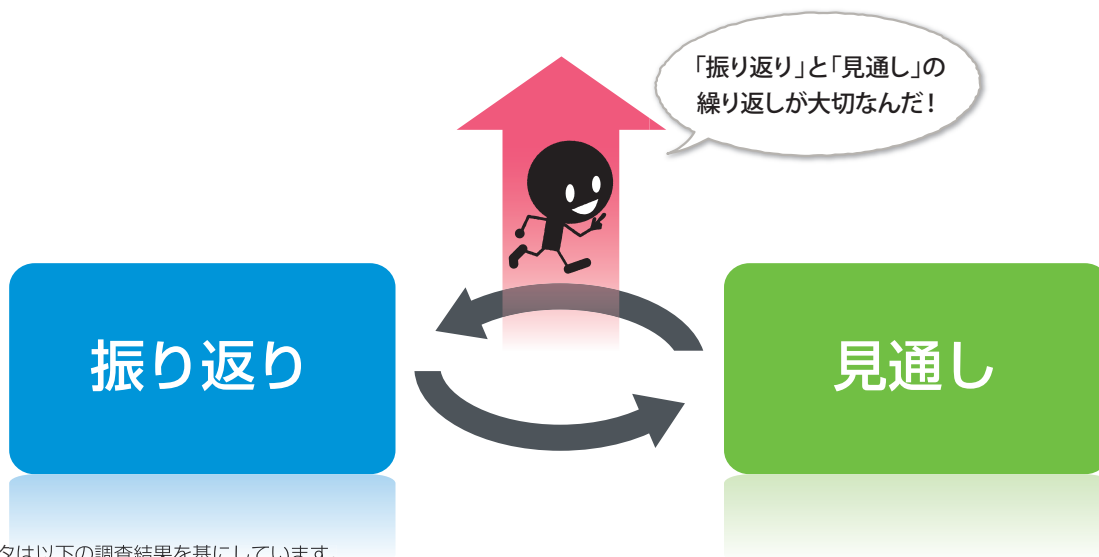
人は他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等様々な役割を担いながら生きています。こうした様々な役割について、人はその関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいきます。こうした役割の連なりや積み重ねがキャリアとなります。

キャリアは「ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく(中略)発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠」\*2 であるとも言われています。

児童生徒が自ら「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ことができるためにも、こうした活動を促す組織的・体系的な働きかけと、それを支える教材が不可欠です。

このように考えると、その時々活動を記録し、蓄積していくポートフォリオは、「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ための材料と見ることができます。

キャリアが役割の連なりや積み重ねであることに立ち返れば、そうした材料(教材)とそれを利活用した教育活動は1回きりで終わるものではありません。日々の振り返りや、学期、学年ごとの振り返り、学校種を越えて、積み重ねられていくものになります。



\*1 このデータは以下の調査結果を基にしています。

調査名称: キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査

実施時期: 平成24年10月~11月

調査方法: 各都道府県、政令指定都市において所管する公立学校からの抽出

調査協力: 学校(小995校, 中500校, 高993校), 学級・ホームルーム担任(小1,681名, 中950名, 高1,978名),

児童生徒(小4,179名, 中4,235名, 高4,660名), 保護者(小4,008名, 中3,931名, 高4,259名), 卒業生(中1,503名, 高1,169名)に御協力を頂きました。

※本調査結果の詳細については、以下の2冊の報告書を御参照ください。

第一次報告書: [http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/career-report.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report.htm)

第二次報告書: [http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/career-report\\_2.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_2.htm)

\*2 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)第1章

# 新学習指導要領と答申に見える ポートフォリオに係る記述

前ページまでで見てきたことを踏まえると、2020年からの学習指導要領やその根拠となった2016年の中教審答申において、次のように記載されていることについて腑に落ちる先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

## ●学習指導要領特別活動第2(学級活動・ホームルーム活動)3内容の取扱い

学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の(在り方)生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、(児童)生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

## ●中央教育審議会答申 平成28年12月21日

子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることが重要である。そのため、子供たちが自己評価を行うことを、教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置付けることが適当である。例えば、特別活動(学級活動・ホームルーム活動)を中核としつつ、「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用して、子供たちが自己評価を行うことを位置付けることなどが考えられる。その際、教員が対話的に関わることで、自己評価に関する学習活動を深めていくことが重要である。

## ●中央教育審議会答申注釈 平成28年12月21日

(前略)…既に複数の自治体において、「キャリアノート」や「キャリア教育ノート」などの名称で、児童生徒が様々な学習や課外活動の状況を記録したり、ワークシートとして用いたりするなど、子供自らが履歴を作り上げていく取組が行われており、こうした取組も、「キャリア・パスポート(仮称)」と同様の趣旨の活動と考えることができる。こうした既存の取組の成果を参考としながら…(後略)

既存の取組を見に行こう!



本特別編では、次号以降で  
「キャリア・パスポート」の実践に取り組んでいる事例を御紹介します。

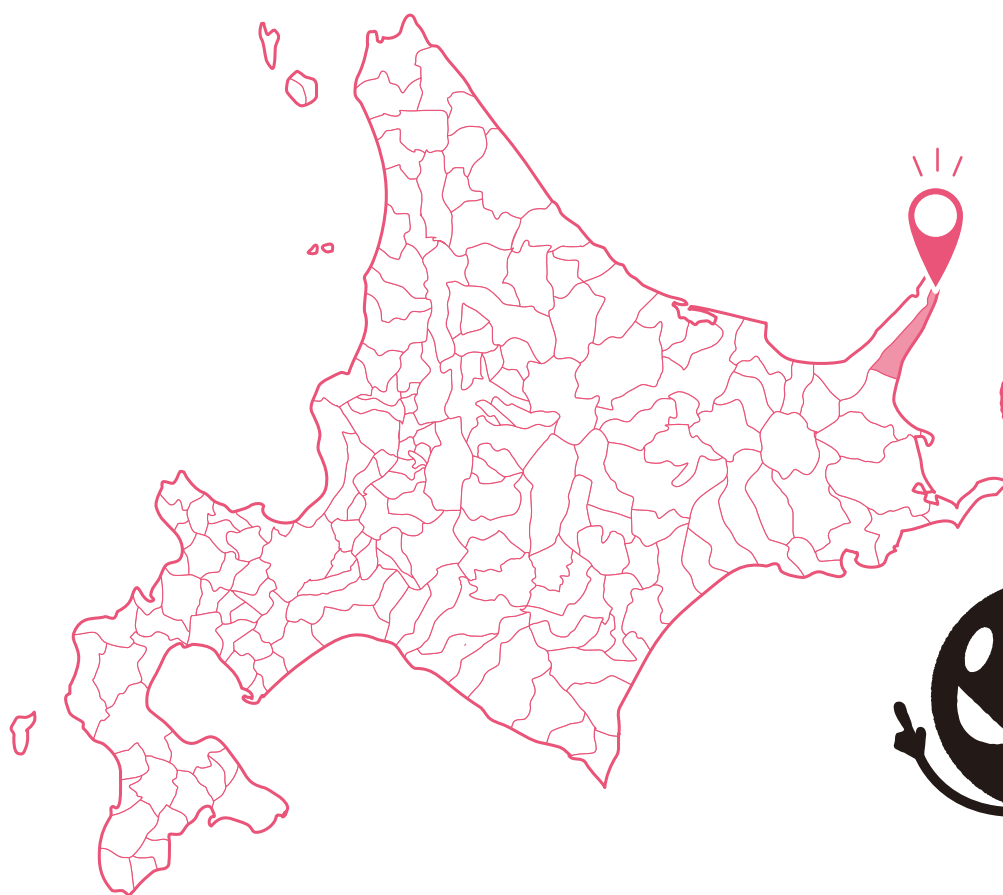


文部科学省  
国立教育政策研究所  
National Institute for Educational Policy Research

〈編集・発行〉生徒指導・進路指導研究センター 平成30年5月  
TEL : 03-6733-6882 FAX : 03-6733-6967  
URL : [http://www.nier.go.jp/04\\_kenkyu\\_annai/div09-shido.html](http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div09-shido.html)

# キャリア・パスポートで 小・中・高をつなぐ

～ 北海道「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」より～



今回は  
北海道, 羅臼町の  
事例です!



# 小学校・中学校・高等学校を キャリア・パスポートでつなげる

— 北海道「小中高一貫ふるさとキャリア教育」と知床・羅臼版キャリア教育の取組に学ぶ —

キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 キャリア・パスポート特別編第2号では、北海道「小中高一貫ふるさとキャリア教育」とその指定地域の一つである北海道羅臼町の知床・羅臼版キャリア教育、及び、その中で行われている「キャリアノート」の取組を御紹介します。

北海道教育委員会は、平成27年度から3年間、道内14管内の同一市町村の小学校、中学校、高等学校を指定しました。地域の未来を担う人材を育成するため、地方自治体や地域の産業界など関係機関・団体の支援を受けながら、研究指定校において、家庭生活の大切さや子供を育てることの意義についての学習や、小学校、中学校、高等学校間の体系的なキャリア教育に取り組み、北海道におけるキャリア教育の充実を図ることを目的にしています。共通の取組の一つとして「キャリアノート」の活用が挙げられます。

北海道教育委員会は「キャリアノート」作成に当たっての留意事項を以下のように明示しました。

## 留意①

「キャリアノート」は、小中高12年間において、節目となる入学期・卒業期には、自分の成長の足跡を振り返りながら現在の自分自身を見つめ、自分の将来や働きたい仕事、生き方を考えることができるよう構成する。

## 留意②

「地域ダイスキ！プロジェクト」\*1及び「子どもダイスキ！プロジェクト」\*2を実施する対象学年については、目標や取組内容、感想等を記載させる。

※1 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業の柱① 地域のよさや地域で生活を営むことについての理解を深める取組  
※2 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業の柱② 家庭生活や子育ての課題を理解するとともに、課題解決に向けた意識を高める取組

## 留意③

「地域ダイスキ！プロジェクト」及び「子どもダイスキ！プロジェクト」の取組以外においても、キャリア教育に位置付ける教育活動(例えば、体育大会、運動会、文化祭、学芸会、見学旅行、インターンシップ、職場体験・見学等)については、目標や取組内容、感想等を記載させる。

小中高それぞれにおいて、記載させる内容の候補として以下のとおり示しました。

### 小学校の場合

- ・住んでいるところで好きなところ、好きな人を書こう。
- ・できるようになりたいことを書こう。
- ・将来、どのような仕事をしたいか(してみたいか)書こう。

### 中学校の場合

- ・住んでいる地域で行われる好きなお祭りや行事を書こう。
- ・〇年生で挑戦したいことを書こう。
- ・高校で頑張りたいことを書こう。
- ・将来、やってみたい、就きたい仕事などを書こう。

### 高等学校の場合

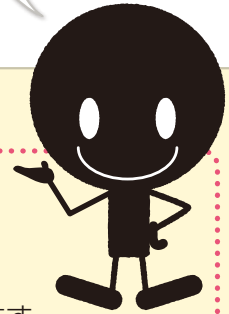
- ・地域の来場者数を増やすためにはどんなPRが必要か書こう。
- ・〇歳までには必ず実現したいことを書こう。
- ・大学生、社会人になって頑張りたいことを書こう。

次に、各校種をつなげる工夫をしている「キャリアノート」を活用している、北海道立羅臼高等学校と羅臼町立小中学校の事例を紹介します。

# 各学校段階をつなげる工夫を知床・羅臼版キャリア教育 羅臼高校の取組に学ぶ

知床・羅臼の自然や産業を生かしたふるさとキャリア教育を推進しています。「キャリアノート」もその一つで、羅臼町内の全小学校から羅臼中学校、春松中学校へ持ち上がり、羅臼高校に入学した生徒は全員が小学校からのキャリアノートを持って来ています。

羅臼高校の  
校長先生に実際の取組を  
聞いたよ！



## 解説



### 羅臼高校 校長先生

「キャリアノート」の取組は今も改善の途上ですが、現時点の取組のポイントと今後の展望を併せて紹介します。

## ポイント① 小中高をつなぐ

高校1年の学年末に書く「キャリアノート」のページには“中学生の頃と比べて”という項目が盛り込まれており、中学校の「キャリアノート」を振り返る場面が設定されています。

もちろん、前の学年の記録を読み返す仕掛けや次年度の取組への見通しを立てさせる仕掛けも行われています。

このように、学期や学年のみならず、時には下級学校での経験も併せて振り返り、これから見通すように活用することが大切です。

羅臼町では、小中高一貫教育研究会を設置し、学校、家庭、地域で学びをつなぐ体制を構築しています。



## ポイント② 将来をつなぐ

高校版では“今の学びが、将来、どのように役立つか”考えさせる項目が多く設定されています。



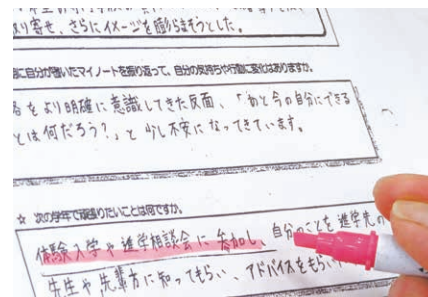
何を記録させるかも大事ですが、蓄積をどう活用するかを忘れてはいけませんよね。

# 児童生徒の記録を基にして 教師はどう関わるのか



## 児童生徒を認めていることが伝わるメッセージを返す

書かせて終わりではなく、児童生徒の頑張りを教師が認めているというメッセージを返すことが大切です。教師の負担を軽減しつつも、対話的な関わりを目指す上では、児童生徒の記載内容の「ポイントとなるところに線を引く」程度からまずは始めるのも良いでしょう。キャリア・カウンセリングの初めの一步としても位置付けたいところです。(キャリア・カウンセリングについては平成28年に当センターから発刊された「語る、語らせる、語り合わせるで変える！キャリア教育」を参照してください。)



課題や検討が必要なこともまとめておきましょう。

### キャリア・パスポート活用にあたっての検討課題

#### どのように記録させるの？

児童生徒の行動と考えや思いを整理する工夫が重要です。『具体的に何をした』『今度は何をする』といった項目や『そのときどう思った』『なぜこうしたい』といった項目などを尋ねることで、自分の行動を客観的に見るように促していくのも有益でしょう。

キャリア・パスポートをまとめるときを見越して、後で振り返ったときにそのときの気持ちを思い出す手掛かりとなる記述がなるべく多くなるように促しましょう。

書くのが苦手な児童生徒は『印象に残ったことは『体育祭』、『頑張ろうと思うことは『テストの点を上げる』』といった、単語や短文になりがちですが、まずは書けたものを前提にしつつ、自身の考えをより表現できるように関わっていくことが大切です。

見通しの観点からは、将来の自分を想像させることもよいでしょう。キャリア・パスポートに残しておくことで、想像した時点が来たときに、当時の想像の自分と、今の自分を比べる機会を提供することができます。また、自己変容を確認することにもつながります。

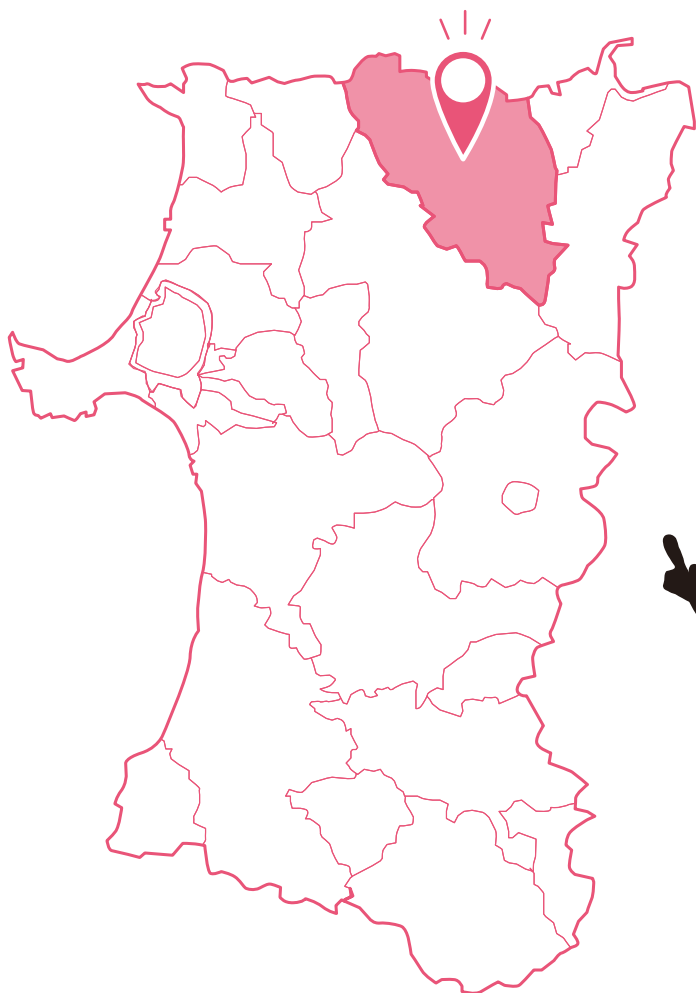
「教師の対話的な関わり」をするには、具体的な記述が必要では。





# キャリア・パスポートで 日々の授業をつなぐ

～ 秋田わか杉「キャリアノート」  
『あきたでドリーム(AKITA de DREAM)』と  
大館ふるさとキャリア教育より～



今回は  
秋田県、大館市の  
事例です!

# 毎時間,毎学期,毎学年で培った振り返る力と, キャリア・パスポートをつなげる

— 秋田わか杉「キャリアノート」『あきたでドリーム(AKITA de DREAM)』と大館ふるさとキャリア教育の取組に学ぶ

キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 キャリア・パスポート特別編第3号では秋田県大館市の大館ふるさとキャリア教育とその中で行われている「キャリアノート」の取組を御紹介します。

秋田県では,教育庁が平成24年度に,わか杉っ子の「キャリアノート」『あきたでドリーム(AKITA de DREAM)』を作成し,以後,全県下の小学校・中学校においてその活用を図っています。

本号で紹介するのは,こうした全県共通の「キャリアノート」と,各校で取り組まれている日々の振り返る力の育成を関連付け,時にファイル・ポートフォリオ等も併用しながら,子供たちのキャリア発達を促している取組です。

## 大館市と大館ふるさとキャリア教育

大館市は秋田県北部に位置しており,市立小学校17校,市立中学校8校を数えます(平成30年4月現在)。市内の全小学校・中学校で,「大館ふるさとキャリア教育」を学校経営の柱に据え,取り組んでいます。

### 「大館ふるさとキャリア教育」について

「未来大館市民の育成」を理念とし,おおだて型学力(自立の気概と能力を備え,ふるさとの未来を切り拓く総合的人間力)を培うことを全ての教育活動を通して行っている。

おおだて型学力を鍛える授業や,子どもハローワーク,百花繚乱作戦といった活動によって,日々の授業や,体験的な活動などを通じて多面的に働きかけている。

大館市独自の  
理念なんだね!

#### おおだて型学力

百花繚乱作戦

おおだて型学力を鍛える授業

子どもハローワーク

1

#### 百花繚乱作戦

各校が地域の教育資源を生かし,児童生徒が自分たちの地域に目を向ける機会となる学習活動を各校独自に実施している。地域でのボランティアや,地域の特産物の栽培・販売等といった,各校ならではの取組を地域と一体になって行っている。

2

#### おおだて型学力を鍛える授業

人間的基礎力,大館市民基礎力,大館市民実践力を,段階を追って培うことを念頭に,授業を行っている。授業の最後に振り返りを行い,自己の成長やなりたい自分の姿に気付くように促している。

3

#### 子どもハローワーク

地域・企業が行う仕事やイベントのお手伝い,ボランティアへの参加などの体験を行っている。体験した内容は,実績を記録するための「キャリア・カード」\*に記載され自身がどのような活動をしてきたかがわかるようになっている。

\*職業体験ボランティア



こうした大館ふるさとキャリア教育の中で、「キャリアノート」はどのように活用されているのだろうか？



**A.** 児童生徒の「振り返る力」の成長に伴走するように、「キャリアノート」へ記録を蓄積していきます。

大館ふるさとキャリア教育においては、各校種において、全教育活動をキャリア教育の視点から進めていきます。そうした日々の児童生徒の変容・成長を、「キャリアノート」に蓄積していきます。

### 例 城西小学校 — 「算数の振り返り」

城西小学校では、「算数の振り返り」を行っています。低学年では右に示した項目によって振り返りの手掛かりを児童に示しますが、学年が上がるにつれて子供たち自身の発想で振り返りを行うように促します。

日々の授業で培った振り返りの力を、他の様々な活動場面でも発揮するように教師は促していきます。例えば、異学年交流の場面では、上級学年の児童が振り返りを行う様子を下級学年の児童に見せ、自身の今後を見通す機会としても位置付けています。

こうして培われた振り返る力を基盤に、「キャリアノート」に記録が蓄積されていきます。

#### 「算数の振り返り」

- ・新しく気付いたこと
- ・自分の考えがかわった理由
- ・友達の考えを聞いて思ったこと
- ・学び合いを通して感じたこと
- ・次に学びたいこと

振り返りの活動が  
ずっと続いていくんだね！

### 例 下川沿中学校 — 毎時間と学期、学年単位のリフレクションをつなげる

下川沿中学校では「追究型学習」の発想に立ち、右に示した3つのことを、各教科・領域の中で実践しています。

こうした授業の中で毎時間行われるリフレクション(振り返り)や、「特活ファイル」、「総合ファイル」への記録などを通して、小学校で培った振り返る力を更に伸ばしていきます。

第2学年の「総合的な学習の時間」では、年度当初に「キャリアノート」に記した「なりたい自分」を踏まえ、「特活ファイル」、「総合ファイル」を用いて具体的に自身の成長を把握させ、リフレクションの時間において第3学年を見据えて今後の生活を見通すといった授業を行っています。

追究型の  
学習課題の設定

追究、実験、比較、検討、  
発表などの学習活動の導入

提示課題を用いた  
リフレクション

POINT



## 毎時間, 毎学期, 毎学年で 培った振り返る力を生かす

もし、キャリア・パスポートに関わる取組を子供たちに「学期末や年度末に1時間だけを使って書かせて終わり」という内容にするなら、とても負担感が多いものになってしまうことでしょう。何もせずに学期末や年度末を迎えてしまうと、子供たちの記憶も薄れてしまっており、なかなか書けずに苦しむ子も出てきてしまうかもしれません。

むしろキャリア・パスポートを活用していく上では、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力と関連付けることを意識したいところです。これは新しいことを始めるというわけではなく、各教科・領域における活動の中にある、自身の考えを振り返ったり、表現したりする機会を活用することを意味しています。

例えば、大館ふるさとキャリア教育では、各校の日常の中で行われる振り返り(各教科等の授業やファイルへの活動記録のまとめ等)と、その場面で培われた振り返る力を基盤にしながら、「キャリアノート」を書くことが行われていました。こうした日々の活動と、ある程度の時間を取ってキャリア・パスポートを書く活動とを、キャリア教育の視点から一体的に捉え、いずれも振り返る力を培うものとして計画類に位置付けることが大切です。

キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編のキャリア・パスポート特別編 第1号でも御紹介したとおり、2020年からの学習指導要領においては、振り返りが重視されています。また、同学習指導要領が何を学んだかとともに、何ができるようになるかも意識されていることに鑑みれば、日々の授業でできるようになった「振り返り」こそがキャリア・パスポートを書くための基盤になるよう、意識しつつ指導することが大切です。

